

# 鬼と一緒にコロナを 吹き飛ばそう!!



## ふくろう新聞



2月3日(金)節分の豆まきレクを各ユニットで行いました。ユニットで作ったかわいらしい鬼のお面を出迎えてくれました。

鬼に扮している職員にとっても驚かれましたが、迫力のあるお面に興味津々。入居者さんも順番にお面を被ったり、金棒を持って一緒に記念撮影をしました。また、入居者さんに

豆に見せたボールをかごに投げてもらい一緒に楽しみました。ユニット毎に行ったので、次第に鬼たちにも疲れが出てきました。入居者さんのニコニコした表情にとっても癒されました。

今日のおやつは豆乳プリンです。まだまだ寒い日が続きますが、邪気を払い体調を崩さず元気に春を迎えたいと思います。

(生活援助係 東原裕己)



▲お面を作る高瀬さん

<発行>  
特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員  
洲本市中川町中川原28番地1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

昨年の暮れ、ふくろうの郷ではコロナウィルスのクラスターで、入居の方々と職員・数十人が感染、人工透析の方が重症化し、保健所の協力もあり入院、厚い治療で命が救われ、年明けには収束しました。県からの抗原検査キット、保健所の指導、職員の昼夜を分かたぬ奮起の結果です。政府は5月からコロナが感染症の5類に格下げします。医療・検査・ワクチンの公費や保健所体制は維持を制度として頂きたいものです。



## 無病息災を願いとんど焼き



1月15日(日)地域交流会の沖田会長と山田さんの協力によりとんど焼きを行いました。下見に来ていただいた際に、草が生い茂っておりとても足を踏み入れられない状況であったため、沖田会長と宇城さんが草刈りをしてくれました。

前日には、沖田会長と平野さんが門松で使用した松などを解体してとんど焼きの準備を行いました。当日まで

に何度も地域の方々が足を運んでくださいました。天気予報では雨だったので心配していましたが、無事に当日を迎えることができました。

平野さんがくださったしめ縄や書道講座で書いた半紙やお札等を一緒に燃やしました。竹が燃えつきるまでとても時間がかかりましたが、その後はお芋を並べて焼きました。20分ほどで掘り起こし、お芋を割ってみると中はホクホクでした。みんなでお芋を食べました。

とんど焼きの煙をたくさん体に浴びたので、今年1年も健康に過ごせますように・・・

地域交流会の方々に支えられて今年も始動しました。よろしくお願ひします。

(地域交流会 神代雅司)

# ふくろう物語 高瀬 幸代様

## 新天地での生活

昭和24年11月4日奈良県高田市生まれの73歳。両親、妹と弟の5人家族。2歳の時に高熱が原因で聞こえなくなりました。6歳の時に大阪生野ろう学校に入学。母親がまだ小さかった妹弟を連れて一緒に通学していました。高等部を卒業後は水引きの会社に勤めていました。

20歳の頃に神戸ろう学校の文化祭に遊びに行った時に、征一さん(後の夫)と出会いました。



▲料理講座で腕前を披露する幸代さん

その後、征一さんと昭和44年11月17日に結婚されました。結婚を機に仕事を辞めて、西宮で夫の両親との生活がスタートしました。昭和46年には息子を出産し、家事に育児に奮闘した日々を過ごしていました。編み物が得意でセーターやベスト、マフラーなどを編んでいました。息子との会話は主に口話で行い、学校の先生とは筆談でやりとりすることが多かったです。子どもが小さい頃は友達家族とクリスマス会をしたり、旅行に一緒に出かけるなどしていました。

息子が大学に進学したのを機に、40歳頃から調理の仕事を始め、55歳まで勤めました。その後、体調を崩し入院を繰り返していました。夫が入院したのをきっかけに再び体調を崩し入院中に大腿骨骨折等で自宅へ戻ることに難しくなりました。老人保健施設を経て、淡路ふくろうの郷のショートステイを利用され、令和4年8月8日に長期入居されました。

## ふくろうの郷での暮らし

ふくろうの郷の厨房まで来られて、調理職員が働いている様子を見たり、今日の献立は何かと気にされています。以前、調理の仕事の経験があり、入居後も当時を思い出されるのか厨房へ足が向かいます。

行事の案内をみると、料理講座はもちろんのこと書道や絵手紙などには毎回、参加され、どの講座も手先が器用なので見ごたえのある作品が仕上がっています。

息子さんの来訪を心待ちにされています。早く以前のように気兼ねなく外出できるようになればいいと思います。今後もふくろうの郷での暮らしを支援していきたいと思っています。

(生活援助係 東田学)

## 福笑い

福笑いをお正月に楽しみました。手に持ただけでは形がわからず、顔に当てて確認しながら職員が手渡しました。なかなか上手いかないところがおもしろおかしく見ている方も一緒に楽しめました。



▲形を確認し、顔の位置に置こうと慎重な井上さん



▲息子さんとガラス越しで対面

両親に感謝息子より  
母は真面目でコツコツ努力家。人に優しく協調性もありますが、怒ると自分の意志を曲げない性格です。

貧しい中大学まで行かせてもらい心から感謝しています。丈夫な身体を与えていただいたおかげで、今も仕事を務めることができます。



▲息子の中学校入学 (右は義姉)

### 1 月 24 日(火)にふくろうの郷で看取り介護研修を行いました



### 「看取り介護研修」 〜最期まで尊厳のある生活を〜

#### 【職員の感想】

私が大事にしたいと思うことは「一緒に過ごして欲しい」「最後まで出来るだけその人らしく過ごして欲しい」「家族が入居者の最後まで寄り添って欲しい」と考えていました。実際に息を引き取るところまで一緒に過ごすことができ、良い経験となりました。又、最期の化粧も家族様にも見ていただきながら行うことができました。この学びを生かして更なる看取り

につなげていきたいです。

(生活援助係 島ひづる)

安心して最期を迎えて頂くために私たちが職員は何が出来るのかは、常に考えなければならぬ課題であると思う。関わり方の浅かった入居者の看取りに携わった際、看取りに入ってから対応していくも十分な対応ができず、「もっとこうしておけば良かった」と思うことも少なくなかった。誰しもいずれ最期を迎える。訪れた時に後悔の残る関わりにならないよう、入居者のことをもっと知っていたらと思う。

(生活援助係 篠倉拓己)

主治医から終末期と診断を受ける「いよいよか」と言う気持ちになるがユニット職員、他部署との連携や相談を行い苦しみのない終末を目指し安心して旅立つ準備をする。看取りは家族様に代わり貴重な経験をさせていただき、またエンゼルケアも看護師と一緒に行う。だが職員として亡くなるのは理解できても寂しい気持ちに変わりは無い。短い間であってもふくろうの郷で過ごされた時の思い出がたくさんある。これからも関わりを大切にしていきたい。

(生活援助係 風一郎)

### 2月・3月 ふくろうの暮らし

- 2/17(金) 回想法
- 2/18(土) ふくろう大学書道講座
- 2/22(水) ふくろう喫茶
- 2/24(金) ふくろう大学料理講座
- 3/ 1(水) 誕生会
- 3/ 6(月) ふくろう理髪店
- 3/15(水) 手話講座



▲回想法の様子

時節柄に応じたテーマで参加者から思い出を語っていただいています

### 大根いただきありがとうございます

地域交流会の平野様から、たくさんの大きな大根をいただきました。ありがとうございます。

例年であれば料理講座の一環として大根まつりを開催し、入居者の皆様と一緒におでんを炊いていただくのですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大のため、残念ながら大根まつりは中止となりました。そのため、いただいた大根は通常の入居者の皆様のお食事として使わせていただいております。

新型コロナウイルス感染拡大前は大根まつりも地域交流会の皆様と一緒に実施していましたが、ここ数年は行えておりません。早く地域交流会の皆様と一緒におでんをいただける日がくるよう願っております。

(管理栄養士 秦奈津子)



# 淡路聴覚障害者

## センター便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

楽しもう クリスマス♪  
みんなあつまれ！輪っはっは♪(第13回)



12月18日、第13回「みんなあつまれ！輪っはっは♪」を開催し、5家族とスタッフ合わせて15名の参加がありました。寒いけれど楽しみなクリスマス、お友達やおうちの人と一緒にクリスマス飾りや簡単なカップケーキを作ってみるなど楽しい時間を過ごしました。今回は参加したお友達同士でグループになり、初めは緊張していましたがそれぞれにスポンジをカップに入れた



▲ツリーの飾り完成で～す。イエイ！

あとは「生クリームしぼる？大好きないちごは最後だね、もっとたくさん生クリームしぼるといいのちがう？」などと相談しながらすすめ、次に緊張がほじめて参加している子どもたちに笑顔が見られました。コロナ禍のため、カップケーキは持ち帰って食べてもらうこととなりましたが、「食べるのが楽しみ、飾りはさっそく家のツリーに飾りたい」と好評でした。製作のあとは皿回しの一芸に挑戦しました。参加の子供たちは全員成功することができました。



▲グループに分かれてツリー作り

参加者からは「お友達とケーキ作りができた」「新しいお友達ができた」「久しぶりに参加して楽しかった」や「手話を覚えることができて良かった、もっとたくさん覚えたい」という感想をいただきました。次に会う時は、それぞれが成長してさらにお兄ちゃん、お姉ちゃんになっていることでしょう、楽しみです。(楠本 恵利子)

### 第6回社会生活教室

#### 「ストレスとうまく付き合うには？」

コロナ禍で外出する機会が減り「何となくイライラする、眠りにくい、気分が落ちない、常識がない等怒られる込む」など心身の不調を抱えている人も増えているようです。一人では抱えきれないことが多い。一人で抱えきれないで、しんどい時は気軽に相談しましょう。

12月17日(土)、洲本健康福祉館にて精神保健福祉士・社会福祉士の稲淳子氏に「ストレスとうまく付き合うには」とのテーマでお話していただきました。

稲氏は、ストレスは誰でもあり、こころの病気になる人の中には「意思の弱い人」と決めつけるのは誤解です。要するに、ストレスとの付き合い方が大事。自分がストレスを抱えていると、ちょっとしたことでイライラがエスカレートする。うまく切り抜ける方法を考えたり、心にゆとりを持つて対処できるように自分の心身の健康を第一に考えることが大切。特に聴覚障害者

は「意思の弱い人」と決めつけるのは誤解です。要するに、ストレスとの付き合い方が大事。自分がストレスを抱えていると、ちょっとしたことでイライラがエスカレートする。うまく切り抜ける方法を考えたり、心にゆとりを持つて対処できるように自分の心身の健康を第一に考えることが大切。特に聴覚障害者

あり、こころの病気になる人

助言。

稲さんのお話を聞いて安心できるのか、後日こころのケア相談に申し込まれた方もおられました。(辻愛子)



▲ストレスとうまくつきあおうと稲淳子氏

### 中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



☎ 656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992

## ありがとう

### イオン洲本店より贈呈品

イオンスタイル洲本店様より毎年クリスマスプレゼントをいただいています。1月10日(火)今年度はフードプロセッサーと計量器3台をいただきました。



これまでは、おのこの家の利用者さんが包丁を使用して、時間をかけてナッツ類を刻んでいましたが、頂いたフードプロセッサーを使用し、



あつという間に作業も終わり、とても便利になりました。菓子パン、焼き菓子作りに活用し、大切に使用させていただきます。



また、おのこの家の家室内班にいただいた計量器は、数字の表示も大きく、塩のバック詰め作業にはとても使いやすく助かっています。利用者さんが主体となっています。各班の作業に取り組んでいます。

### ～おのこの屋パン・クッキー移動販売日時について～

- ・第1, 3 (水) やまて会館 12時～
- ・第1 (金) 五色神陽台 15時～
- ・第2, 4 (火) みやまホール 13時～
- ・第3 (月) 大野ひだまり館 12時半～
- ・第3 (火) アミアミ+i (淡路県民局) 12時～
- ・毎週 (木) 中川原ふれあいセンター 10時半～
- ・毎週 (金) 森の木 base (第1のみ木曜日) 13時半～



(職業指導員 山田裕美・生活支援員 興津典子)

イオンスタイル洲本店よりメッセージ

## 利用者の西本馨さん 剪定作業が得意



西本馨(かおる)さんは剪定作業を自身から希望され、こだわりを持って仕事するタイプ。今年1月から中川原体育館の外周に植えられているカイズカイブキを2.7mの三脚に乗り、黙々と作業しています。(管理者 橋詰一則)

## 「干支リース」のレク活動

1月23日(月)、今年最初の小林先生によるレク活動。今回は着物生地やフェルトを使ったリース作りです。



今年の干支のウサギの形をしたフェルトやお花の形をした水引を全体のバランスを考えたながら貼っていきました。細かい作業も多く苦戦している方もおられました。完成すると、とてもかわいらしく、

「部屋に飾っておくわ。」と嬉しそうな表情で話されていました。

皆さん月1回のレクを楽しみにされています。(おのこの家 職業指導員 船越愛)

# 神戸長田ふくろうの杜

〒653-0836 兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1  
電話 078 798 7940  
FAX 078 798 7941

## 虐待防止研修

### (ふくろうの杜・ふくろうの樹)

1月15日(日)虐待防止研修を実施しました。今回の研修のテーマは「グレーゾーン」。各事業所での実践でありがちな事例をもとに、当日、36名の参加者を8グループに分けて、グループワーク形式で意見交換をしました。今回の研修は、事例や日頃の支援の方法で、「どうなんだろう?」と疑問をもっているよう

### 【感想】

- ・「グレーゾーン」の考え方は、それぞれだが、改めて、話し合えて、意思統一や、意識付けできたのはよかった。命にかかわる場合は、厳しく接しないとだめだと確認しあえた。
- ・普段会わない職員とも色んな意見が聞けて良かった。
- ・資料の事例がわかりやすかった。

な内容を、職員間で意見を出し合いました。

「グレーゾーンは虐待の芽」であり、今後の大きな問題につながることを、みんなの共有できたことはよかったです。 (多機能型神戸長田ふくろうの杜 管理者 野村洋子)



・改めて、自分の行動を見直すきっかけになりました。

・虐待と聞くと「ドキッ!!」と思う言葉です。個々の体験談や情報をもとにした話もあり、何が虐待になるのかと考えました。話し合った内容は、集約して報告があるので、もう一度考える機会にしたいです

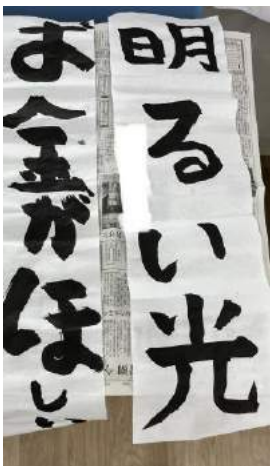
## 「いきま」体験からの発達保障

書き初めをしました。子どもたちの目標は小学生は「水泳が上手になりたい」「勉強をがんばる」など。「お金がほしい」といった現実的な内容もありました。

中学生では「英語力アップ」など、この勉強を集中的に頑張りたいといった目標がありました。

書き初めの途中、小学生のひとり、ゆいちゃんが「自分は一度も習字のコンクールで入選したことがないねん、同級生は全員取ったことがあるけど」と。「そうなんや、最初から上手な人なんかおらんや、練習すればするほど絶対上手なるから!」とろう職員。

お友だちも「そうだよ」と共感してくれていました。



学校が始まりました。ふくろうここにゆいちゃんが来ました。ドアを勢いよく開けて開口一番、「先生、入選したで、めっちゃうれしい!」と手話で報告してくれました。

お母様いわく、家で50枚以上、書いて練習を繰り返していたそうです。(第71回神戸市小中特別支援学校書初展覧会入選おめでとう)

これからも成長を見守っていきたいと思います。

(放課後等デイサービス

管理者 山本美由美)